

# カンボジアで教育を行うボランティアを募集します

東北大学 大学院理学研究科 森田康夫

カンボジアではポルポト政権時代の迫害により、大学院で数学教育を行える人材が枯渇しています。このため、旧宗主国であるフランスや、カンボジアの復興に協力をしてきた日本などが中心となり、Royal University of Phnom Penh の大学院生を相手に数学の基礎的な内容（概ね、日本の数学科の3年生か4年生程度の内容）について集中講義を行い、今後のカンボジア数学を担う人材を育成することを計画しています。

このような活動を行うため、私はトヨタ財団のネットワーク形成プログラムに「カンボジアの数学教育のためのネットワークの構成」を応募していましたが、期間2年、援助額350万円で申請が採択されました。そこで、ボランティアとしてRoyal University of Phnom Penhで集中講義を引き受けて戴ける人を募集いたします。

集中講義は、Royal University of Phnom Penh とフランス側との交渉で、計45時間の講義（1日3時間を3週間で3時間×15日=45時間）を原則とすることが既に決まっています。ボランティア活動としますので、講演謝金はお払いいたしません。

（航空運賃の実費）+（5万円）を切り上げて万単位にした額を旅費などの実費として、トヨタ財団から頂いたお金から援助する予定です。Royal University of Phnom Penh で誰がいつ集中講義を行うかについては、カンボジア教育省科学研究部門の部長で、カンボジア数学会の会長である Chan Roath 氏、フランスの CIMPA (Centre International de Mathématiques Pures et Appliquées) 代表の Michel Jambu 氏、及び私が相談して担当者を決めます。

2008年の夏までは、日本からは確率を教えられる人を派遣し（決定済み）、それ以外にフランスから数人を派遣する予定となっています。したがって、次に派遣するのは2008年の10月以降になりますが、ご興味がおありの方に専門とカンボジアに行くことができる可能性がある時期をお知らせ戴き、候補者のリストを作り、関係者との調整を経て、2007年度中に集中講義の予定を決めたいと思っています。候補者リストへのご登録やお問い合わせは、メールなどで、私宛 (morita (at) math.tohoku.ac.jp) にご連絡下さい。

ちなみに、今年の7月には、東京電機大学の桑田孝泰氏が Royal University of Phnom Penh のプレ・マスターコースの学生に対して集中講義を行っています。カンボジアの物価や観光資源などについては、旅行案内書をご参照下さい。